

ゆうかり放送委員会提供

ゆうかりに乾杯

第 143 回放送の概要 (2019 年 3 月 23 日放送)

パーソナリティ

たろう

(佃 由晃)

なか

(中嶋邦弘)

かりん

(妹尾優香)

くらら

(河野真紀)



ミキサー

門ちゃん

(門田成延)

会計

小山俊則

相談役

わだかん

(和田幹司)

1. ゲストコーナー (1) 安積沙矢さん (ペン画家、介護士)、首藤義敬さん、首藤美幸さん

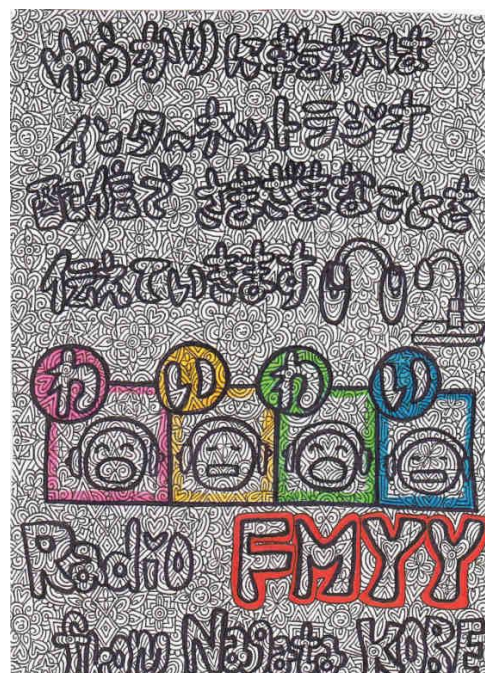
(株式会社 Happy 代表)

(1) 安積沙矢さん (ペン画家、介護士)

子供の頃は、絵を描くよりドールハウスなど物を作る方が好きだった。活弁で体育や図工が好き。兵庫大開小学校、兵庫中学卒業。

震災時は中学生で、学校は避難所になったので、勉強も卒業式も仮設だった。家はマンション7階で傾いていて、近くの祖母宅に避難していた。姉の影響で1年から6年までガールスカウトに入っていたので、テント生活などに役立った。MC のクララさんとは同じガールスカウトの団の仲間で、この放送で再会できた。

ペン画は3年前に突然メニエル病になったのがきっかけで始めた。家から出られなくなり、テレビでボールペンでグルグル絵を描くリハビリを見た。それに自分なりに花やニコちゃんを描いてみた。それが発展してペン画になった。これを描いている時は眩暈もなく落ち着いていた。名前の文字をペンで描き、それから背景を埋めて、マーカーで色をつける。この3年で文字だけで250字、お店のプレゼントや看板などに描いて、長田では色々置いてもらってる。お世話になった方々へのプレゼントとした。



安積さんの作品

r3(六間道商店街のレンタルスペース)の合田さんに色々な方と繋いでいただいた。家から5分の所だが、船酔い状態なので30分かけて行っていた。r3でアートの方たちとかに知り合い、作品展もした。そこでお弁当を提供しているママさんたちとも友達になった。介護の資格を持っていたので、オープン前の「はっぴーの家」の首藤さんにも、そこで紹介してもらった。

(注)「はっぴーの家ろっけん」は、サービス付き高齢者住宅。首藤義孝さん美幸さん夫婦で経営。地域の人が集まったり、個性的なスタッフさんの下、街の憩いの場になっている。

首藤美幸さんは、安積さんは「リハビリ」と言っていたが、今は普通にスタッフの一人として、働いてもらっている。入居者もスタッフもこうでなければならないという決まりはない。私たち夫婦も変わっているので、今は体調も随分戻っているので、入浴、排泄、食事介助など、全て行っている。1日3、4時間から、今は2年たち、週に4回働いている。毎日刺激があり、「はっぴーの家」の名の通り、はっぴーな事が沢山起きている。メンバーの結婚、出産などもある。そのお腹にも、首藤美幸さんと一緒に絵を描いた。



施設1階壁は安積さんの作品



ペン画を持った個人の写真で構成



名前1文字のペン画



沙矢さん美幸さんの合作

今は住んでいる真野地区で PTA 活動の後、まちづくり推進会の広報を担当している。真野について何も知らなくてイベントに参加したのがきっかけ。お母さん方にも大事な情報は知らせないといけないと思い、手伝わせてもらいたいと入った。真野地区は震災時、地域の人達が火災から街を守った。そういう事を子供た

ちに伝える活動もしている。広報新聞「まのっこだより」を作っている。裏表紙にお店をペン画で紹介したり、各自治会長さんを紹介した。若い人にも活動して欲しい。今後、街が明るくなり、楽しいイベントが増えて欲しい。一番の目標は関西テレビの番組「よーい、どん」の人間国宝さんに出る事。

2. ミュージック:たかとり救援基地復興隊 「夢光る町神戸を」

3. ゲストコーナー (2)

(2) 株式会社 Happy 代表 首藤義敬さん

株式会社 Happy は「こんな暮らしがあったらいいのになあ」を作っちゃおう、という会社。色んな世代の暮らしを作る。「はっぴーの家ろっけん」を作るまで、首藤さん夫婦はお祖父ちゃんお祖母ちゃんなど14人の大家族で暮らしていて、こういう暮らしをしたかった。結婚まで美幸さんは大勢で暮らしたことはなかったが、良いなあと思っていた。大家族では台所に立つ母親が4人いて日替わりで料理をしたり、洗濯物も誰かが洗い、誰かが干す。頼れる人が沢山いたので、助かったし面白かった。

「はっぴーの家」を作るにあたり、1年以上前から、街の人と一緒に、どんな所がいいか、延べ100人以上とワークショップをした。その結果、施設ではなく、生活が楽しくなるエンターテイメントを欲していることがわかった。それを軸に「世界旅行」のコンセプトをたてた。新長田は沢山の国の人が住んでいるので、人生が旅行のように楽しいシェアハウスを作ろうと思った。



はっぴーの家ろっけん



首藤義敬さん

今の高齢者の介護施設は選択肢が無い。施設は病院みたいで、人との出会いがないなあと思っていた。沢山の人の人に出会うとリスクも発生するが、日常の登場人物を増やす、色んな人に会えるシェアハウスを目指している。作る時から関わっている人が多いので、自分の居場所と思ってきている。6階建ての1階は、週に200人位の人が来ている。町の人々の飲み会やこども食堂などに使ってもらう。1階は、居住者には強制はせず来たければ来てね、そこを使う町の人にはおじいちゃんおばあちゃんが参加したそうなら入れてね、それがルールだ、と言っている。2階以上は居室。世界旅行のコンセプトに合わせて、1階は長田港、2階は昭和の六軒道、3階はアジアリゾート、4階はアメリカンドリーム、5階はヨーロッパ、6階はアフリカをイメージしている。首藤家族とお祖母ちゃんも一緒に住んでいる。

美幸さんは介護士として夜勤もしている。本来なら子供と離れて仕事になるが、一緒におやすみなさいと

言ってくれたり手伝ってもらえる。子供たちも1階でお手伝いをしている。掃き掃除、食事介助、など。NHKにも取り上げられたが、当たり前的事だと思っている。大家族で育ってきたので、沢山の人達との出会いは誰にとっても良いと思う。

パンフレットに書いている「遠くの親戚より近くの他人」の言葉の通り。家族の概念が変わってきている。このパンフレットにでている人達は誰一人血が繋がっていない。近くに家族のようなコミュニティがあれば、家族も住みやすく介護もしやすい。NHKの全国ニュースでも放送され、今度は30分番組で放送される。

介護費用などの財政は破綻するといわれている。首藤さんは、解決できない事に向かうのではなく、良い意味で依存しあう関係を作る事ではないかと思っている。それが地域のコミュニティではないかと、最近感じている。これはシェアリングエコノミー。誰もがこんなのがあれば良いなあと思っている。例えば家のハイエースを使わない時には町の人とシェアしようとか、介護のシェアリング、子育てのシェアリングも含む。クララさんも子育てで見守りの眼がないのが不安だったが、これはお互いの信頼関係の上に成り立つと思う。

はっぴーの家 遠くのシネキより 近くのタニン

※家族より家の方を カンファイが本意にある



とある日のらっけんの日常(注：誰一人血のつながりはありません。)

多世代が集う (医療介護別添付)
世界一にぎやかな老後
注：はっぴーの家は高齢老人ホームではありません。高機能設備や住環境をお探しの方は『高齢老人ホーム』で検索してください。

子ども大人も外国人も、お互い自然体で暮らすラッけんみち。
どこかよっと懐かしいこの場所に、はっぴーの家ラッけんはあります。

お勧めポイント！

- 赤ちゃんや子どものお世話に忙しい日常
- まちの人が気軽に遊びに来るリビング
- 突然始まるパーティも大歓迎

そんな日々を介護士、看護師がサポートする終の住処。お金では買えない人との関わりを大事にしたい方は是非！足を運んでみてください。

ご入居お断りの方

- 赤ちゃんや子どもが苦手だ。
- 人と接するのが嫌だ
- 規則に縛られた生活が性に合う。

月額10万5千円～

全部屋個室/夫婦入居可(安否確認・生活相談料込み)
お問合せ先：078-643-6558
サービス付き高齢者住宅はっぴーの家らっけん
神戸市長田区二葉町1-1-8

質問:人の中に入って鬱やメニエル病になる場合もあるが、その点はどうですか？

首藤さん:沢山の人は誰一人呼んではいない。顔が見える付き合い、知り合いのみが来ている。この場所に対して理解している人だけが来ている。」

美幸さん:心の風邪と呼ばれる病も、一人が良い場合もあれば、誰かと話してスッキリとする事もある。選択肢の一つ。そんな時にフラッと来れる避難場所になってくれれば、と思っている。

部屋は個室、全部デザインが違う。暮らす所を選べる。介護ではなく、暮らしを作っている。お祖母ちゃんの事だけを考えると限界がある。そこで、そのお祖母ちゃんに関わる人を増やそうと考えた。地域の人など、皆にとって良い環境がある事ではっぴーの価値が上がる。人と同じ事ではなく、変わった事をしたい。多世代が集う世界一賑やかな老後をつくりたい。人は誰かの為に生きないと幸せではない。町の人々が気軽に遊びに来るリビング、突然始まるパーティを目指している。

住んでもらうには最後までケアする。そのため介護士さんはとても大事。手術以外の医療行為ができるように医療看護が出来るようにしている。

入居お断りの方は「赤ちゃんやこどもが苦手」「人と接するのが嫌だ」「規則に縛られた生活が性に合う」と言う人。今、この町、六軒道に暮らしたいと移住が増えてきた。それを後押ししたい。泊まりたい人の為に、1階をゲストハウスにしようと神戸市と話している。お爺ちゃんお婆ちゃんが案内し、街の空き家をホテルにしようという計画もある。

4. 地域瓦版

兵庫区まちづくり活動プラットフォーム事業交流会が3月30日(土)18時～21時、「北の椅子と」で開催されます。

放送音声は、FMYYのHPおよび「ゆかりに乾杯」のHPで視聴いただけます。
<https://tcc117.jp/fmyy/?cat=51> [http:// yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/](http://yukari-ni-kanpai.sakura.ne.jp/)